

(仮称) 蒲生学園設計・建設説明会 質疑回答内容

| | 質問 | 回答 | 項目内容 |
|---|--|---|---------------|
| 1 | 1年前の当初計画から建築の仕様で変更された点があれば教えてほしい。 | 基本的な施設の構成・考え方については、提案事業者としては最適だと考えていたため、1年前の計画から変更していないが、建設コストの上昇に伴って、コストを抑えるため、体育館の屋根部分の構造をさらにコスト減になるような構造にしている。また、設備計画をさらに合理化することで、省エネルギーになるような計画をしている部分の変更点である。それらの点以外は基本的には変更せず、要求水準書に従って最も適切な計画として提案している。 | 計画内容に関すること |
| 2 | 学校が敷地からどれくらい離れて建つのか。学校が南面にあたるため、日照権や太陽がどのようにあたるのか。高い建物が建てられるので一番心配である。具体的に何m離れるのか。 | 寸法が書いていなかったため、わかりにくくて申し訳ない。駐車場の寸法で見ただくと分かると思うが、駐車場の縦方向の長さは、約5mのため15m以上は離れているとご理解いただきたい。旧蒲生小学校の校舎は、隣地境界線から3m程度の距離にあったと思うが、それよりも離隔距離を増やしているイメージをしていただければと思う。今は更地になっているので、新たに校舎が建設されると別の見え方をすることもかもしれない。校舎の壁面をセットバックし、駐車場をしっかりと配置することで、近隣への影響を少なくするような計画を検討している。日影については、できるだけ既存日影よりも出ないかたちで検討を進めているところである。 | 外構整備に関すること |
| 3 | 計画概要の資料の配置・平面計画で駐輪場の後ろに緑の丸印が4つ示されているが、これは木を植えることを示しているのか。これまでに北側に大きな木が道路側にあつて、風が吹くと葉が飛んできて、それを片付けていた。そのため、できるだけ高い木は植えないでほしいと思う。以前、日陰でどうしようもなかったためお願いしたところ、木を切るには校長先生の許可がないと切ることはできないと言われた経緯がある。ぜひ、検討してほしい。 | 緑化計画については、これから協議となるが、イメージとして北側角の場所には影響が出ないような計画を考えている。これから協議していくことになるが、敷地には一定の緑地を設けなければいけないという条件があるため、その中で高木をできるだけ避けるなどの計画を進めていければと考えている。 | 外構整備に関すること |
| 4 | 説明の中で、建物の周囲の高さについて12mと説明があつたが、その高さとは周囲の塀のことか。 | 12mという高さは、ボールができるだけ出ないようにするための防球ネットの高さのことである。現在設置されている防球ネットよりも高い防球ネットを設置すること考えている。 | 外構整備に関すること |
| 5 | ネットはグラウンドのところに設置されるのか。 | 詳細については、検討していくことになるが、概ねグラウンドを囲むように12メートルの高さの防球ネットを設置することを計画している。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 6 | グラウンドは主に中学生が野球やサッカーで使用するのか。 | 基本的には小・中学校の授業で使用していくものであるが、小中一貫校であることから、中学校の部活動もこのグラウンドで行うことになる。グラウンドにバックネットが整備されているのは、野球部が活動できるようにしているものであり、その他サッカーや陸上などの部活動の場となる。なお、放課後の利用については、小中一貫校となるので、場所をすみ分けしたり、現在、教職員にヒアリングを行いながら、使い方についても確認しているところである。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 7 | 旧蒲生第二小学校の体育館を解体するということか。まだ古くないと思つたが、解体費用はいくらぐらいかかるのか。 | 旧蒲生第二小学校の体育館は、解体することとなる。解体費用については、小中一貫校整備費全体の中に含まれていることから、体育館だけの解体費用というのは今ここですぐにお示しすることが難しい。なお、本日の説明会で使用している旧蒲生小学校の北体育館は比較的新しい体育館ではあるが、旧蒲生第二小学校が使用していた南体育館は昭和48年に建てられたものであり、体育館屋根のみ修繕している。 | 校舎等解体に関すること |
| 8 | 計画概要の資料には、通学路のグリーンベルトがないが、子どもたちはどこを歩いて通うのか。また子どもたちが安全に通れるのか。通勤・通学の車があるとき、子どもたちが渡ることができないのでどうかしてほしい。 | 新たな学校が整備される周辺道路については、現在のところ整備を行う予定がない。しかしながら、この場所に小中学校の校舎が新設され、南中学校の生徒が新たな校舎に通学することから、通学路について地域の方やPTAの代表者の皆さんで構成している(仮称)蒲生学園地域準備会においても、ご意見をいただきながら安全・安心な通学路設定に向けた検討しているところである。 | 通学環境に関すること |

(仮称) 蒲生学園設計・建設説明会 質疑回答内容

| | | | |
|----|---|---|---------------|
| 9 | 学童保育の建物は比較的新しいと思うが解体するのはどうなのか。また、解体費用はいくら位かかるのか。 | 解体費用は総額となるため、ここでお示しすることができない。 | 校舎等解体に関すること |
| 10 | 建替え計画のステップ1で新校舎建設が23ヶ月とられていて、令和8年6月に完了する計画となっている。(仮称)蒲生学園が開校されるまで1年近く開くと思うが、その期間、新校舎は全く利用されないのか。 | (仮称)蒲生学園の校舎については、令和8年7月末に完成予定となっている。その後、小学校が令和8年度の夏休み中に引越しを済ませ、2学期から校舎を使用する予定である。中学校については、令和9年4月から使用することとなるので、その前に引越しを行う予定である。 | 校舎等解体に関すること |
| 11 | 現在、南中学校がこの地域の広域避難所となっているが、新しく校舎ができたらかここが避難所になるのか。もし、そうであれば災害時のための設備などを何か整備される予定はあるのか。 | 避難所として体育館を活用することを計画している。避難場所指定等の詳細については、担当課より改めて住民の皆様へ周知することとなる。避難スペースとして利用するのは基本的に学校全体で、地震に対しては、耐震性を確保しながら、避難所として利用できるようにしていく。避難所の中心としては、基本的に体育館を想定している。災害時に電気が止まった場合でも、給電できるように災害用バルクタンクというものを北側に設置する予定である。また、2階部分に給水タンクを設置して、災害時も一定期間は水が使えるように対策することで、避難所機能を充実させる計画となっている。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 12 | 今まで蒲生小学校のグラウンドを少年野球などの練習等を行うため、土曜・日曜日に貸し出ししてもらっていたが、南中学校が蒲生小学校と一緒にした場合でも土曜・日曜日にグラウンドを貸し出ししてもらえるのか。 | 南中学校の部活動も使用することとなるが、これまでも旧蒲生小学校、旧蒲生第二小学校の校庭については、学校開放団体へ貸し出しを行ってきた。そのため、学校開放団体と部活動の活動場所を棲み分けて貸し出しができるよう考えている。現時点で、どの部分を貸し出し出来るかお示しすることはできないが、学校開放団体も使用できるように検討していく。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 13 | 南中学校の生徒の駐輪場が必要になると思うが、どのようになるのか。 | (仮称)蒲生学園の敷地内に南中学校の校舎ができた際には、通学区域が概ね2km以内になることが想定されることから、基本的には自転車通学ではなく、徒歩通学になる予定である。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 14 | 現在、少年野球で北側のグラウンドを借りているが、北側のグラウンドが借りられるのは、校舎建設が始まる令和6年6月までということではどうか。 | そのとおりである。校舎建設工事が始まるまでは使用できる。 | 学校設備・諸室に関すること |
| 15 | 1年前の説明会で通学する児童生徒数が増えるので、登校時の子どもたちの安全性について質問があったと思う。先程の説明で周辺道路の整備はないとのことだが、PTAや地域の方とどのようなところまで検討されたのか。 | 旧蒲生小学校と旧蒲生第二小学校が合併し、現在の蒲生小学校となって子どもたちが通学しており、今後新しい校舎が整備されると南中学校の生徒も通学することとなる。地域準備会の中で、特に南中学校の生徒が通う新たな通学路について、学校や地域の方々、PTAの代表者の方からも危険箇所などについてのご意見をいただいている。通学途上の安全確保を図るという点で、子どもたちの登校時間に合わせ、晴天時と雨天時の交通量調査を行うなど、通学路について検討を行っているところである。 | 通学環境に関すること |
| 16 | 上の子が中3、下の子が小6になった時に(仮称)蒲生学園が開校となる。これからの議題にはなってくるかと思うが、もし南中学校の部活動の朝練があった場合、全部の門を開放するのか。それとも一部の門を開放するのか。通学路に関して、一定の時間帯だけでも、通学路専用道路としてできないものか。 | 現在、中学校の部活動の朝練は、原則行わないという方向になっているため、多少のずれはあるが、7時などの朝早い時間帯の通学はない状態である。 | 通学環境に関すること |
| 17 | 蒲生小学校は、通学班での登校となっているが、最近他の学校を見ると、通学班でなく、個人で登校しているところもあるようだが、どのように考えているのか。 | 市内の小学校で、通学班を設定せずに登校しているのは1校のみである。1年生から6年生までの子どもたちが、安全に登校するために通学班が必要であるという考えから、学校として通学班登校を決めている。蒲生小学校は、通学班登校を行っているが、今後も続いていくものと考えている。 | 通学環境に関すること |
| 18 | 部活動の朝練は原則行わない方向と回答いただいたが、朝7時頃に出勤する際、南中学校の生徒かどうかかわからないが、中学生を見かける。本当に朝練はなくなるのか。 | 大会が近い場合には、学校長の判断で特例として行っているが、原則として行わない方向となっている。恐らく、大会が近い時の練習のための通学だと思われる。 | 計画内容に関すること |
| 19 | 校舎建設の発注先が新しく設立したPFIこしがや教育環境整備株式会社とのことだが、校舎の建設が完了した後、新たに設立したこの会社は解散となるのか。それともメンテナンス等で会社自体は存続するのか。 | 校舎建設終了後も令和23年まではPFI事業として維持管理業務を行うので、それまでは会社は存続することとなる。 | PFI事業者に関すること |

(仮称) 蒲生学園設計・建設説明会 質疑回答内容

| | | | |
|----|---|---|--------------|
| 20 | この会社が請け負う維持管理業務は、(仮称) 蒲生学園のみとなるのか。例えば、市内の別の学校を建設することとなった場合は、その都度別の会社を設立することとなるのか。 | (仮称) 蒲生学園については、維持管理業務を含めたPFI事業となっているので、PFI こしがや教育環境整備株式会社が行うこととなる。なお、次の学校建設については未定であるが、PFI事業として行うのか、また、PFI事業に維持管理業務を含めるのか等については、その都度検討していくこととなる。 | PFI事業者に関すること |
| 21 | 去年の旧蒲生小学校の解体工事説明会の時に資料をいただいた。令和4年8月から9月にアスベストの除去工事を行った。その時に図工室と各教室の煙突、廊下の天井のアスベストを除去して解体の工事を行った。今使用している蒲生小学校のアスベストの状況はどうなっているのか。 | 旧蒲生小学校解体説明会の際には、ご心配をおかけし、また、貴重なご意見をいただき感謝している。新校舎完成後に蒲生小学校校舎を解体することになるが、これからアスベスト調査を行う予定である。なお、調査した結果、アスベストが検出された場合は、それに対応した解体工事を行うこととなる。 | 校舎等解体に関すること |
| 22 | これから調査するとのことだが、図工室や教室の煙突とかのアスベストはそのまま状態で授業を行っているということなのか。体には害はないのか。 | 旧蒲生小学校の時もそうであったが、校舎を使用するにあたって飛散する状態ではないので、人体に影響を及ぼすことはない。現在は、問題なく使用することはできるとのことである。アスベスト調査は、校舎を解体する際に飛散するかを調査するものである。調査を行い仮にアスベストが検出された場合は、解体の際に飛散しないような策を講じて工事を行うこととなる。 | 校舎等解体に関すること |
| 23 | 校庭、外構計画について、校庭整備は、中学校をベースに計画されていると思うが、野球のバックネットの位置は決定しているのか教えてほしい。また、ボールが近隣の住宅に飛ぶことがないようにバックネットの上部にネットを張る等の対策を検討してほしい。 防球ネットの下部を防砂ネットとし、砂の被害を防ぐという説明であったが、校庭の面積が今までの倍になるということで、砂である以上、風が強い日は少なからず近隣に影響が出るため、砂埃の効果的な対策としてスプリンクラー等の設備を検討していただけないか。 | 既存のバックネットは、南東側に設置されているが、ボールが近隣の住宅に飛ぶことがないように、活動場所を南西側に移している状況から計画では南西側にバックネットを設置する計画としている。また、防球ネットを現在よりも高い、高さ12mとすることで、ボールが近隣の住宅に飛びづらくなるような計画としている。砂埃の対策として、防球ネット12mの下部に風が通りづらくなるよう、2mの防砂ネットを設置し、土の表面にできるだけ風が当たりにくくなるような計画としている。砂については、グリーンサンドという重い砂を使用することで、現在のクレーのグラウンドより飛びづらい計画としている。また、砂埃の効果的な対策としてスプリンクラーを設置する計画としており、樹木の配置計画と併せて検討している。 | 外構整備に関すること |
| 24 | 中学校と小学校が一緒になるということで、学校にいる間は中学生と小学生が頻繁にすれ違ったりするということでよいか。 | 一体型校舎の建設にあたっては、中学生と小学生の多様な交流の場をたくさん作るというコンセプトとしている。例えば、図書室において一緒に読み聞かせをする等、様々な点での交流ができる計画を検討している。 | 計画内容に関すること |
| 25 | 野球のバックネットの位置が現在の南東から南西に設置することになると、ボールが飛んできて屋根に当たった場合、瓦が割れたりする被害が想定されるが、防球ネットの範囲を教えてください。 | バックネットの位置は南西側になる。打球は、近い位置に落ちると高く飛び、遠くなるほど低く飛ぶ傾向にある。東側は、バックネットからできるだけ離れた位置に防球ネットを計画している。現在の防球ネットの高さは9mのため、現在よりも3m高い12mの防球ネットを設置する計画としている。 | 外構整備に関すること |
| 26 | 図面では、グラウンドまでを防球ネットとしていると読み取れるが、グラウンドから北側には防球ネットを設置しないのか。子どもたちは某野球選手のように打球を飛ばす可能性があると思うが、飛距離等の計算を行った上で、北側には防球ネットを設置しないということか。 | 図面上のトラックとトラックの間の直走部が100mとなっており、バックネットから斜めに距離を想定すると100m以上ある。中学生の軟式野球では、76m程度がホームランの目安になるので、防球ネットまでの距離を十分に取っており、更に12mの防球ネットを設置することで、近隣に配慮した計画としている。計画のバックネットの位置からボールを打つ想定で、防球ネットを超えるようなことはない想定している。 | 外構整備に関すること |
| 27 | 某野球選手の名前が付いた防球ネットを設置した事例もあるが、何故、バックネットの位置を現在と逆にするのか。 | 打球は、近い位置に落ちると高く飛び、遠くなるほど低く飛ぶ傾向にある。東側にバックネットを設置した場合、防球ネットを超える可能性があるため、テニスコートによって防球ネットまでの一定距離が取れる、西側に設置することで、東側に配慮する計画としている。 | 外構整備に関すること |
| 28 | 東側住宅地と校舎の距離、北側住宅地と校舎の距離はどのくらいか。 | 東側の道路境界線から校舎までの距離は約9m、北側の隣地境界線から校舎までの距離は15m以上となる。 | 外構整備に関すること |

(仮称) 蒲生学園設計・建設説明会 質疑回答内容

| | | | |
|----|--|---|--------------|
| 29 | 実際に野球のボールが飛んできて、車や住宅の窓ガラスに当たり、フェンスの下部にネットの設置をお願いした事があった。学校の児童ではなく、大人の野球（公民館活動の一環）で校庭を利用しており、ボールがバウンドしてネットを通過してきた。このため、防砂ネットと同時に下部の防球ネットもしっかりした物を設置してほしい。 | 社会体育で校庭を利用する団体に対しては、公民館と連携を取りながら、頂いたお話を伝えさせていただく。 | 外構整備に関する事 |
| 30 | 校舎の東側には窓があるか。 | 廊下の端に北側の棟、南側の棟それぞれ各階1箇所に採光確保のための窓を設けている。また、東側の住宅に建物の圧迫感等を与えないよう、壁面緑化を計画している。 | 学校設備・諸室に関する事 |
| 31 | 建設中の事だが、旧蒲生小学校解体の際に、近隣の方々から騒音・粉塵・砂埃・振動等のいろいろな話を聞いた。今回の建設は4階建てのため杭工事があると思う。旧蒲生小学校解体の工期よりも長い2年9ヶ月の工事となるため、影響が大きいと思われる。近隣への影響や対策について教えてほしい。 | 現在は設計中のため、建設・解体工事に関しては、工事開始前に再度、本日よりも詳しい説明会を開催させていただく。そのため、現段階での内容となるが、一般的に建設工事よりも解体工事の方が、頑丈な建物を壊すため、粉塵・騒音・振動等により、近隣住民の皆様にご迷惑をお掛けすることが多くなる。新築工事は、ご迷惑をお掛けすることは間違いないが、解体工事に比べて騒音・振動等は少ない工事になるかと思う。ご心配頂いている杭について、現在はドリルで穴を掘って設置するため、電柱みたいな物を叩いて打ち込んでいく昔のイメージとは違い、ドリルで穴を掘る際の振動よりも、重機が移動する際のキャタピラの方が振動するくらい、杭を打ち込む際の振動は少なくなっている。 | 計画内容に関する事 |
| 32 | 建設・解体の説明会は別途設けるということでよいか。その説明会では近隣への影響や対策について教えてほしい。 | 説明会は来年に設ける。本日は、設計・建設というよりも、概略を説明させていただいた。今後、実施設計が決定した後、建設の日程、内容、車両の出入口等の詳細な説明をすることを考えている。 | 校舎等解体に関する事 |
| 33 | 児童・生徒は何人くらいになるか。また、児童・生徒は同時に登校するのか。また、自転車通学はどのくらいか。東側の自転車出入口門は誰が使用する予定なのか。 | 小・中合わせて1,600人規模となる想定である。この1,600人が同時に登校すると、混雑や危険を伴うため、登校時間をずらすなど、今後、検討していく。また、自転車通学の件であるが、現南中学校が（仮称）蒲生学園に移った際には、通学距離は今までより短くなることから、自転車通学はない予定となる。なお、自転車出入口門については、来校されるお客様を想定している。 | 学校設備に関する事 |
| 34 | 子どもが小学3年だが、中学1年生になる時は、南中学校に入学して、建物が完成してから中学1年生から3年生までと一緒に引越しをする認識でよいか。 | 令和9年4月に（仮称）蒲生学園が開校となる。蒲生小学校の児童は、令和8年度2学期から新校舎を使用する。中学生は令和8年度3学期まで現在の南中学校校舎を使用し、令和9年4月から（仮称）蒲生学園校舎を使用する。 | 計画内容に関する事 |
| 35 | 男子トイレにおいて大便器の使用が恥ずかしいとの考えから、小便器を無くして全て大便器にするといった様な考え方を取り入れたりしないのか。 | 今回の計画では、小便器と大便器を併用しながら空気調和衛生工学会が示す、学校のサービスレベルの内、一番レベルの高い（待ち時間が最も少ない）サービスレベル1を基に器具数を算定している。一般の住宅は洋式ですが、大便器のみとした場合、自宅で立って使用している子が、同じ様に使用した場合、汚れ等によって次の子が使用しづらいといった事例があることから、小便器と大便器を併用する計画としている。 | 学校設備・諸室に関する事 |
| 36 | 小学生と中学生が同じトイレを使用する計画なのか。 | 教室周りについては、各学年に1箇所設ける計画としている。共用の特別教室周りには共用のトイレを設置している。 | 学校設備・諸室に関する事 |
| 37 | 旧蒲生小学校があった時は北東に設置されていた室外機による騒音で悩まされた。騒音基準はクリアしていたと思うが影響はあった。新校舎では室外機を何処に設置するのか。 | 室外機については、各教室に空調設備を設置するため必要になる。設置場所については、敷地の有効活用を含め、屋上やアリーナ上部等の地上面ではない部分に、既存の体育館を除き、新校舎は設置する計画としている。 | 学校設備・諸室に関する事 |
| 38 | 周囲のブロック塀は既存のままとなるのか。経年劣化により壊れている部分がある。 | 周囲のブロック塀及び防犯フェンスは、全て整備し直す計画としている。また、防球ネットも全て再整備する計画としている。 | 外構整備に関する事 |